

保姆養成に關する意見の調査

恩賜財團愛育會愛育研究所

保育といふことの役割が、國民教育上、人口政策上いよいよ重きを加へて來ましたことは、吾々直接保育の仕事に參與してゐるものとして、非常に喜ばしいことであると同時に、大きな責任を感ずるものであります。

愛育研究所では、茲に保姆養成制度の問題を研究題目として取上げ、各方面の調査研究を致して居りますが、ここに御報告するものは昨年各講習會に参加された方々に御依頼して、うかがつた意見の結果の概要であります。保姆養成に關して將來の參考となると共に現在保育に當つて居られる方々の御參考にもなることと思ひ、ここに掲載させていただきます。御回答を寄せられた保姆諸姉には厚く御禮申し上げます。

なほ、この種の調査として、同様の趣旨の下に、保育關係の諸家、保育に關心ある學識経験者等に御依頼した分は、本年九月の「社會事業」誌上に發表いたしました。又當研究所「社會事業研究所」の共同による保育施設調査中の「保姆」の分は目下吾研究所にて整理中であります。

本調査は、昭和十五年の夏、東京で開催せられた文部省、帝都教育會、佛教保育協會、保育問題研究會等の講習會及び大阪で開催せられた全日本保育聯盟の講習會等に集られた方々に御願ひしたものであります。回答数は残念ながら甚だ少く、一二〇に過ぎませんでした。その内分けは地方別には、府六一、縣五三、外地二、不明四、勤務先別には幼稚園九八、保育所一八、不明四、經驗年數別では三年以上八九、二年以下二七、不明四、資格別では有一〇三、無一七、學歷別では専門學校三五、女學校七五、高等小學二その他六、不明二となつてゐます。

以下その結果の概要を記します。

一、保育上教養の不足と思はれる方面

保育に當つてゐる自己の教養、技能につき自ら反省し、その不足と思はれる方面を大別するに第一表のやうになります。一般的教養に保健方面及び科學的知識の不足が特に目立つてゐますが、一般的教養の内には、現在の社會狀勢や經濟問題のこゝが多數を占めてゐました。

第一 表

	地方別				勤務先別			経験年數別			保母の格		學歷			計	%	
	府	縣	外地	不明	幼	保	不明	三年以上	二以下	不明	有	無	專門	女學	其他			不明
修 養	9	3	1		11	1	1	9	1	3	12	1	6	7		13	9.6	
一般的教養	13	8		1	18	4		15	7		20	2	9	11	1	22	16.3	
保 健	20	5	2		20	6	1	18	7	2	26	1	12	13	2	27	20.0	
兒童心理	7	7	1		12	3		11	3	1	14	1	6	8	1	15	11.1	
母性指導	1	1			1	1		1	1		1	1	1	1		2	1.5	
生活訓練	3	2			5			3	2		5			5		5	3.7	
科學(觀察)	12	16			22	4	2	25	3		26	2	16	11	1	28	20.7	
音樂(唱歌)	8	1	1		10			6	4		10		2	7	1	10	7.4	
談 話	3	3			6			3	3		6			6		6	4.4	
圖 畫	2	1			3			3			3			2	1	3	2.2	
遊 戲		2			1	1		2			2			1	1	2	1.5	
手 技		2			1	1		3	3		1	1		2		2	1.5	

第二 表

		得 意	不得意
音 樂	音 樂	13 3.7	10 2.9
	唱 歌	17 4.9	6 1.7
	樂 器	6 1.7	15 4.3
	小 計	36 10.3	31 8.9
談 話		34 9.8	16 4.6
遊 戲		33 9.5	9 2.6
圖 畫		10 2.9	28 8.0
手 技		22 6.3	9 2.6
觀 察		3 0.9	8 2.3
紙芝居戲		4 1.1	2 0.6
恩 物		1 0.3	1 0.3
子供の取扱		9 2.6	6 1.7
問題兒の取扱		2 0.6	1 0.3
大體のものは		2 0.6	3 0.9
無 し		15 4.3	4 1.1
無 記		16 4.6	12 3.4

ゴヂツクハ百分率ヲ示ス

二、保育の技術について

そこで、さらに技術的にはどんな方面が得意で、どんな方面が不得意か云ふに、第二表の如くで、比較的得意なものとしては唱歌、談話、遊戯、手技等があげられ、不得意のものとしては楽器、圖畫、觀察等があげられてゐます。又得意不得意として反省されたものゝ合計を假りに關心の強さを見れば音楽、談話、遊戯、圖畫、手技等が關心度が高いと云へるかも知れません。

三、保母養成所で習つたことについて

第一問と第二問に關係して、遡つて保母養成所で習つたことの中で、どんなことが役立ち、どんなことは餘り役立っていないかといふことを、勤務先別に見ますと第三

第三表

	幼稚園		保育所	
	幼 稚 園 役 立 つ	幼 稚 園 役 立 た ぬ	保 育 所 役 立 つ	保 育 所 役 立 た ぬ
修身	3	4		
宗教			2	
教育・教育史	2	9		1
保育學	17	1	3	
兒童心理	15		3	
生理衛生		5		
育兒		1		
兩親教育	2			
遺傳學		1		
博物學	2	2		1
人文		2		
保育實習	8	1		
音樂・唱歌・器樂	21		5	
リトミック	1	1		
談話	11			
手技・手工	14	17	2	3
圖畫	5	4		
觀察藝術	2	2		
園藝	2	1		
恩物	3	3	1	
特殊研究	4		1	
總て役立つ	7			
特になし	5	18	2	4

表のやうになります。(無記入一八)

これだけの結果では、結論としては何も云へませんが、無條件に役立つものは、保育學、同實習、兒童心理、音樂、談話、特殊研究等で、役立つものは、修身、博物、手技手工、圖畫、ものが相半ばしてゐるのは、修身、博物、手技手工、圖畫、觀察、恩物等があり、役に立たぬものは、教育、教育史、生理衛生をはじめ博物、手技手工、圖畫、觀察等、それら重要なものに役立つといふのが多いのは、教授内容又は方法の不整備の故か、受講者の心構の確立せぬ故か大いに検討する必要があると思はれます。

四、保姆養成所で教へてもらひたいこと

- 實際經驗談(幼二)調査統計法(幼一)
- 保健衛生(幼二〇、保七)生理(幼三、保一)看護法及び應急手當(幼六、保一)榮養學、榮養食(幼一一、保二)身體異常に對する處置(幼二)兒童心理(幼二、保七)智能検査法(幼三)子供の發達(幼三)性格學(幼二、保一)子供の觀察法(幼一、保二)科學的知識(幼八)子供の生活訓練の實際(幼二)集團をリードする法(幼三)音樂をより委しく(幼六、保二)樂典を委しく(幼二)リズムについて(幼三)伴奏法(幼四、保二)器樂は特に充分に(幼八、保二)季節に應じたる子供らしき歌(幼二)聲樂を委しく(幼二、保二)簡易なる作曲(保一)絶對音感教育(幼二)保育項目に關する勉強(幼三)手技の保育に於ける役割(保一)遊戯

それでは保姆養成所では一體さんなこを教へてもらひたいかといふこを見ませう。具體的な要求を舉げた方がよいかと思ひますので、少々煩瑣になりますが列舉します。

- 保育の眞の理論(幼一)保育の社會的意義(保二)經營及び管理法(幼四)諸届及び簿記(幼二)保育法の實際の指導(幼六、保一)

(幼四、保三)ゲーム、團體遊戲(幼一)自由遊びの指導(幼二)觀察の實際(幼七)園藝飼育の實際(幼三)談話法、發音(幼六、保一)童話創作(幼二)良い童話を多く筆記させて欲しい(幼二)紙芝居について總體的に(幼一)繪が簡單に書けるやうに(幼三、保一)幼児畫の指導法(幼三)子供の繪の見方(幼二)手技(幼二)

時局講座(幼二)婦人問題(保一)女子としての教養(幼三)倫理學(幼二)社會學(幼二)經濟學(幼二)文學(幼五)教育史(保一)人類發達史(幼二)音樂史(幼二)音樂鑑賞(幼二)美術工藝(幼三)幼兒の衣服(幼一、保一)

總て理論より實際を重んずること(幼九、保二)人格完成に力を注ぐこと(幼七)教育的信念を確かりさせる(幼二)優れた藝術的、科學的宗教的環境におくこと(幼二)子供の教材のみでなく藝術的なものを身につける(保一)就職後も自由に研究科に入れるやう(幼二)見學を多くすること(幼二)

以上個々の回答数は少ないけれども色々示唆に富んでゐると思ひます。

五、保育實習について

保育實習についても色々御意見がありました、非常に雑多になりますので、期間について丈纏めて見ます、連續的のこいふのが三、一週數回連續的が二、隔日が二、

隔週が二で、一日について見れば午前中が二三、一日中が一六になつてゐます。

六、保姆養成の期間

さて、以上のやうな教育をするためにどの位の期間が必要かといふことになりましたが、回答を寄せられた方々が受けられた養成は、一年間が七〇名、二年間が一七名、三年間が二名、六ヶ月が一名で、それらの方々が希望する養成期間は、第四表の通りです。

第四表

希望年限	幼稚園	保育所
3年	10	2
2年又は3年	4	
2年	68	9
1年	7	
その他	1	2
無記	8	5

(不明4)

七、保姆として教養を高めるために

不足と思はれる教養を補ひ、さらに之を向上する爲めに、どんな方法がさられてゐるかといふことを見ます。

修養、信仰(幼一九、保

二)讀書(幼五二、保五)講演、講習(幼三一、保二)研究會(幼一八、保五)參觀見學(幼一六)先輩よりの教示(幼八)反省、記録(幼五、保二)子供の家庭、又は他人に接す(幼七)時事問題に注意(幼八)音樂、映畫等鑑賞(幼五)その他保育に關する勉強(幼三、保四)等になつてゐます。

なほ夏期講習をはじめ各種の講習會にこの位出席されるかといふことを見ましたが、経験年數別にして、二年未満の人は平均二・七回(以下平均回數にて)二年乃至四年の人は四回、四年乃至六年の人は四・七回、六年乃至八年の人は八・一回、八年乃至一〇年の人は六・二回、一〇乃至一五年の人は八・三回、一五年乃至二〇年の人は八・三回二〇年以上の人は一七回といふ數字が出ました。何しろ全數が少ないので確かなことは云へませんし、又回答を寄せられた方は熱心な方こそ考へることも出来ませんが、これで見るに、講習會の出席といふことは可なり多く、再教育方法或は内容の整備といふことは大いに考へねばならぬことと思はれます。それについて、講習會についての意見や希望をうかがひましたが、大體の傾向は、より深いもの、基礎的理論的なものといふものゝ量より質、新鮮なもの、研究發表、教育的信念をかき立てるもの等、質的向上の要求が多いやうですが、反對に實際に則し、具體的にいふやうなものも可なりあり、親睦的にいふやうな要求も強いやうです。なほ回答者がそれ〴〵所屬してゐる研究團體は五七種あり、それらに参加してゐる人員は八九名になつてゐますから、平均して研究會への参加率は七四パーセントになります。

雜誌及圖書についての質問及び、自由意見はここでは省

略します。(三木安正、小溝キツ)

日本幼稚園
協會 保育講習會の中止

今夏に於ける本協會主催の保育講習會は、都合に
依り中止致しました。

昭和十六年八月

日本幼稚園協會